

# 尾瀬

(おぜ)  
位置：北緯36度53分、東経139度11分／標高：1,400~1,420m(湿原部)、1,660m(尾瀬沼)、2,356m(最高地点)／面積：8,711ha／湿地のタイプ：高層湿原、淡水湖／保護の制度：国立公園特別保護地区および特別地域／所在地：福島県檜枝岐村、群馬県片品村、新潟県魚沼市／登録：2005年11月／国際登録基準：1

湿地のタイプ：高層湿原、淡水湖



ミズバショウの咲く尾瀬ヶ原

## 湿地の概要：

「夏が来れば思い出す はらかな尾瀬 遠い空…」と歌われる尾瀬は、その広大で美しい景観により、日本人にもっともよく知られた、日本を代表する湿原である。尾瀬は、首都東京から北へ約140kmの群馬、新潟、福島の3県にまたがる、本州最大の高層湿原である。周囲を燧ヶ岳(ひうちがたけ)、至仏(しぶつ)山など2,000m級の山々に囲まれた盆地状の底に、西側の標高1,400m付近に尾瀬ヶ原、東側の標高1,660m付近に尾瀬沼が広がり、燧ヶ岳の北側には御池田代(みいけたしろ)の湿原がある。

尾瀬は、積雪が4mを超える豪雪地帯にあり、1年の半分以上を雪に覆われる。そのため植物が枯死しても分解されず、泥炭となって積み重なり、低層湿原から中間湿原へ発達し、やがて地表面が盛り上がり、降水や霧だけで涵養される貧栄養性の高層湿原へと遷移してきた。

尾瀬は2007年、日光国立公園から分離され、独立した尾瀬国立公園となった。

## 尾瀬ヶ原と尾瀬沼：

尾瀬ヶ原は面積約849ヘクタールの本州最大の高層湿原で、ホロムイヌゲ、ツルコケモモ、ミカヅグサ、ワタスゲ、ニッコウキスゲ、ミズバショウなど多様な

湿原植物の宝庫である。尾瀬沼は燧ヶ岳の噴火によってせき止められた周囲9km、面積約180ヘクタールの湖で、カタシャジクモなどの希少な植物が多数生育している。

尾瀬ヶ原、尾瀬沼へのいくつかの登山コースに加え、湿原には木道が整備され、容易に日本一の湿原景観を楽しむことができる。尾瀬沼東端と尾瀬ヶ原西端のビジターセンターのほか、山小屋や宿泊施設も多数存在する。

## 湿原を守る努力：

毎年多くの入場者が訪れることから、マイカーの規制、入山マナー・ゴミの持ち帰り指導、山小屋・トイレの排水処理対策、湿原の植生復元などのさまざまな保全、管理対策が講じられている。

日本の登録湿地の多くは国有地、公有地だが、尾瀬の登録面積8,711ヘクタールのうち6,277ヘクタール、72%は民間企業の所有地であ

る。電力会社が発電用取水のために所有していたものだが、ダム計画は中止となり、湿原が守られた経緯がある。

**【ミズバショウ】** 白くて大きな(8~15cm) 仏炎苞をもつ、サトイモ科の植物。湿原に群生し、雪解けのころ花を開き、春のおとずれを告げる。「ミズバショウの花が咲いている 夢みて咲いている…」と尾瀬のシンボルになった。

## ●関係自治体

- 檜枝岐村役場 Tel: 0241-75-2503
- 片品村役場 Tel: 0278-58-2111
- 魚沼市役所 Tel: 025-792-1000

